

エイブル・アート・アワード 2017

実施報告書



【ご報告】

この度は、NPO 法人エイブル・アート・ジャパンが主催する「エイブル・アート・アワード 2017」をご支援いただき、誠にありがとうございました。2017 年度は募集 3 部門に対して全国各地から計 57 件（38 個人、19 団体）の応募があり、厳正な審査の結果、5 名・4 団体が受賞しました。

「エイブル・アート・アワード」は、障害のある人の芸術活動を制作面・発表面から支援することを目的とする助成事業として 1998 年にスタートしました。部門は、銀座にある現代美術ギャラリーでの展覧会(個展もしくはグループ展)開催を支援する「展覧会支援の部」、創作活動に欠かせない画材を提供する「画材支援の部」、そして 2015 年度に新設した、障害の有無に関わらず参加できるアトリエを支援する「小さなアトリエ支援の部」の 3 つです。創作活動支援、展示会のプロデュース、活動費の提供など包括的なサポートに加え、今の社会のニーズに合わせた広がりある芸術活動支援となっています。

障害のある人のなかには人知れず表現活動をしているアーティストたちがいます。彼らは人を元気にするような作品、見たことのない手段で作られた作品、多くの人の心を動かす作品など多様な表現をみせてくれます。私たちのミッションはそうした才能を発掘し、障害のある人の可能性がますます広がっていく環境を築き上げることです。その点、本アワードは過去 18 年を通じて障害のある人がアーティストとして活躍する登竜門的な役割を果たしてきました。また、表現活動が評価され認められることはアーティストのみならず、ご家族や施設で支援をしているスタッフにも大きな力となっています。

2015 年度から新設した「小さなアトリエ支援の部」は、障害の有無にかかわらず、誰もがアートを楽しみ、可能性を広げることのできるサードプレイス(第 3 の居場所)を評価する部門としてスタートしました。実力のあるアーティストたちのみならず、「未来を担うアーティストを育てる環境」を支援する新たな挑戦です。このような障害のある人たちの表現活動への支援は、作品を見る鑑賞者にとっても価値あるものです。

2018 年度も、エイブル・アート・アワードの応募開始の時期が迫ってまいりました。ぜひご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。

【アワード概要】

■ 募集部門

1. 画材支援の部

これから絵を描きたいと考えている人も、ますます活動に打ち込みたい人にも画材を提供します。

《マツダ賞》 (支援内容：油絵具 1 セット、個人 2 名)

《ターナー色彩賞》 (支援内容：アクリルガッシュ 20ml36 色セット、個人 2 名)

(支援内容：イベントカラー550ml・スパウトパック BOX セット、2 団体)

2. 展覧会支援の部

国内外のギャラリーや美術館で発表し活動の飛躍をめざしたい人に、銀座／ガレリア・グラフィカ bis における展覧会の開催を支援します。(支援内容：個展の開催の支援、1 名)

3. 小さなアトリエ支援の部

自宅でもなく学校・施設でもない第3の居場所“サードプレイス”として、障害のある人が参加・活動できるアトリエを運営する団体に活動資金を提供します。(支援内容：活動費 30 万円、2 団体)

※この部門は、フェリシモ基金事務局[UNICOLART 基金]により開設いたしました。基金を通じて小さなアトリエネットワークをつくり、表現活動の活性化や次世代アーティストの育成に広がります。

■ 審査員

小林 敬生さん (版画家/ 多摩美術大学名誉教授)

佐藤 直子さん (横浜市民ギャラリーあざみ野学芸員)

中津川 浩章さん (美術家)

真住 貴子さん (国立新美術館主任研究員)

協賛・寄付団体関係者

■ 主催 NPO 法人エイブル・アート・ジャパン

■ 協賛・寄付(50 音順)

花王株式会社、花王ハートポケット倶楽部、世田谷美術館さくら祭実行委員会、ターナー色彩株式会社、フェリシモ基金事務局 [UNICOLART 基金]、富士ゼロックス株式会社、富士ゼロックス端数倶楽部、松田油絵具株式会社

■ 特別協力 ガレリア・グラフィカ

■ 応募・問い合わせ先

101-0021 東京都千代田区外神田 6-11-14 アーツ千代田 3331 #208

NPO 法人エイブル・アート・ジャパン「エイブル・アート・アワード 2016」事務局

Tel 03-5812-4622 Fax 03-5812-4630

■ 選考会

日時：2017 年 10 月 11 日 (水) 14:00～17:00

会場：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン事務局 (東京都千代田区外神田 6-11-14 アーツ千代田 3331 #208)

【選考評】

この審査も3回目である。今回はレベルの高い作品が集った、最終候補が8名にのぼった事がその証左である。その中で私は 谷村虎之介君を強く推した。3年前初めて見て以来成長を楽しみにしていた逸材である。期待にたがわず君の表現世界は一層の進化をみせ、和紙や顔料などの材料研究も確かで、安心して推薦出来るレベルに達したと評価したからである。

3歳から水族館に通い、7歳からは歌舞伎座に通い始めたという。その成果であろう、歌舞伎シリーズは君独特の視点と感性もあって単なる役者絵を遥かに超えたリアリティーがある。

大袈裟に言うなら写楽の役者絵を彷彿させる絵画世界にまで昇華しているように思う。ご両親の愛情とご苦労が実を結びつつあるを喜ぶたい。

その他の候補作品も魅力的であったがその中では十亀史子さんの、顔のシリーズに注目した。フォルムと同時に大胆な色面に才気を見る。

今一人、須田雄馬君の絵画世界も楽しみである。

テーマ、その他、他に類があると言えばあるが大自然の中で伸びやかに生命を謳歌している鳥や動物たち、その躍動する生命力を表現するフォルムと色彩感覚は君の感性そのものと思う。

ただひたすら楽しく思うがままに描き続けて欲しい。

近い将来「須田ワールド」が私たちを楽しませてくれるだろうことを予感する。

小林敬生さん（版画家/ 多摩美術大学名誉教授）

.....
このたびは、第19回「エイブル・アート・アワード（AAA）」の審査に参加させていただきありがとうございました。

今回受賞された谷村虎之介さんの作品との出会いは、2015年に実施された17回目のアワードに遡ります。拝見するのは今回で3回目となりますが、益々制作に打ち込んでいる様子や勢いが応募資料からも伝わってきました。

お気に入りらしい歌舞伎役者のユーモラスな表情や見得をきる姿が日本画の水干絵具を巧みに使い、大胆にみっちり描かれているのです。

残念ながら選外となった応募者のなかでは、十亀史子さんのアクリルで描いたポートレートシリーズはオリジナリティに溢れていましたし、緻密な単色画に優れた浅野春香さん、自身の心と体の動きが即時的に伝わり、柔らかさのある勝村知子さんの絵画も魅力的でした。

佐藤直子さん（横浜市民ギャラリーあざみ野学芸員）

.....
今回で19回目のエイブル・アート・アワード。歴史を重ね、障害者アートを取り巻く環境もずいぶんと変化してきました。

エイブル・アート・ジャパンが長い間ずっと蒔き続けてきた種子が実を結んできたと思います。
全国各地でさまざまなコンペが開催され、作品がパブリックな場所に展示される、障害があるアーティストの作品がごく自然に評価され価値づけられる、そうした機会が格段に増えました。
こうした状況の変化のなかでの今回のアワード。谷村虎之介さんに決まりました。
過去2回応募されていて、その時も評価は高かったのです。歌舞伎役者のとらえ方、装飾的な画面の構成力が素晴らしい。
今回さらにパワーアップし完成度も高まっているという結果の受賞です。
他にも印象に残った作品は SEIYA さん、浅野春香さん、須田雄馬さん、八木志基さん。コンペは受賞作を決めねばならず結果的に白黒がはっきりしてしまいますが、実際はかなりのグラデーションでの評価です。
今後も表現することを続けていってほしいと思います。

中津川浩章さん（美術作家・アートディレクター）

.....
審査に携わって3回目となる。

他の公募展なども意識的に見るようにしているが、そのたびに表現は人の数だけあるものだと思う。
作品と人はイコールではないが、作品を見るのはその作者に会っているようなものだと思う。
今回、3年連続して応募していた谷村虎之介さんの受賞が決まった。
3年前、つまり私が審査初回目の時はあまり印象に残らなかったのだが、2回目の昨年、なかなか気になる存在になってきた。
今年は、より繊細に役者の表情を捉えるようになっており、絵の魅力が一気に上がっての受賞となった。
年に1度の作品を通しての出会いであったが、成長の過程に立ちあえたのはうれしい。
他にも魅力的な作家として浅野春香さんのちょっと不思議なあたたかさ、勝村知子さんの華やかな明るさ、須田雄馬さんの筆の勢いのこちよさ、八木志基さんの素直で元気な力、SEIYA さんの洗練された線の魅力、十亀史子さんの人への洞察力など今後が楽しみな表現があり、頼もしく思った。

真住貴子さん（国立新美術館主任研究員）

.....
「小さなアトリエ支援の部」によせて

本年度も UNICOLART 基金より「小さなアトリエ支援の部」を開催していただきました。
3部門に渡り多くの応募者があり、それはつまり全国で多くの方々さまざまな活動をされていることのあらわれで、大変意義深いことだとあらためて感じました。
「小さなアトリエ支援の部」3年目となる今年は、応募者の方々の実績も積み重なり、選考は非常に難しいものでした。
本年度、重視したポイントは、アトリエでのアート活動が余暇活動に留まらず、障害をもつ方々の生活者としての自立に寄与できる活動を、継続的にされているか、そして将来のビジョンをしっかりと持たれているかと

いう点でした。

その中で2団体様を選定させていただきました。

2団体様ともこのポイントに合致したこと、さらには将来のビジョンに向けて、まさに今からチャレンジされようとしているタイミングでありました。

ご提供する資金がそのチャレンジの成功の一助になることを祈念しております。

株式会社フェリシモ UNICOLART 基金 芦田晃人さん

.....



選考会当日の様子（NPO 法人エイブル・アート・ジャパン事務局にて）

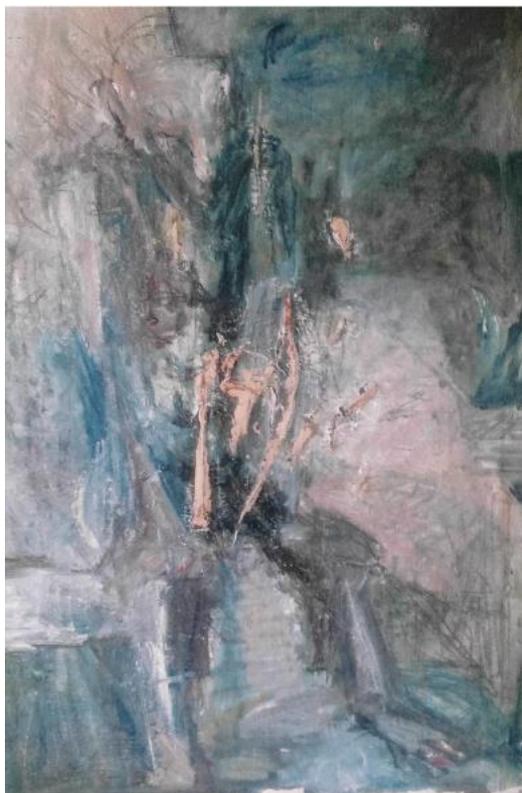
【受賞者からの報告】

[受賞部門] 画材支援の部
《マツダ賞》

■中西孝亘さん（東京都世田谷区）

エイブル・アート・アワード 2017 受賞ありがとうございます。私の絵画作品にご理解いただいたこと、今後の製作への意欲になりました。いただいた油絵具は大切に使用させていただきます。

「日々是絶筆、余命3日」の精神で描いていくのが理想です。受賞謹んで感謝いたします。



[受賞部門] 画材支援の部 《マツダ賞》

■尾崎聡彦さん（福岡県福岡市）

受賞後も変わらず、アート活動を行っています。

普段は板屋学園に入所されています。立地的に山の中にあり、冬の時期は雪が積もると外へ出かけられなくなります。そのため、毎日通っている作業場「このは」に行けない日も続きましたが、板屋学園でも色鉛筆を使って絵を描いています。

「このは」に来た日は、いつものようにクーピー、水彩絵の具を使って絵を描いています。

また、受賞で頂いた「アクリル絵の具」を使ってキャンバスにパンダの絵を描くことも挑戦しました。

動物の写真集の中から自分で描きたい写真を決めて描くのですが、最近は和紙や四つ切画用紙などに何度もパンダを描いています。普段、使わないアクリル絵の具で構図を工夫しながら取り組む姿は、とても集中しており楽しそうにしていました。

板屋学園「このは」 高津 由佳 記



[受賞部門] 画材支援の部
《ターナー色彩賞》個人

■豊島来人さん（長崎県佐世保市）

今回の受賞を受け、大好きな絵がますます好きになったと笑顔で語ってくれた豊島さん。今まで自分の絵は家族や友人、施設のスタッフや生徒に見せていましたが、自分の知らない所で、自分の絵が評価されたことに対し、「自分の絵にこんな力があるなんて」と驚いたと同時に「これからももっといっぱい絵を描いていきたい！」という気持ちが強くなったようです。賞品の画材は勿体なくてなかなか使えなかったようですが、施設内でのレクリエーション等で段ボール工作の機会があり、「今度怪獣や電車を作るときにアクリルガッシュを使ってみようかな」と嬉しそうに話してくれました。施設では彼の好きなものを好きなように描いてもらっていますが、受賞後はリクエストをもらってそれに応じた絵を描く機会も増えており、今後はさらに絵の幅が広がりそうです。本人に将来の展望を尋ねると「楽しく描ければそれでいいです」とシンプルな答えが返ってきました。

MINATOMACHI FACTORY スタッフ 記



[受賞部門] 画材支援の部
《ターナー色彩賞》個人

■カミジョウミカさん（長野県安曇野市）

この度は素晴らしい賞をいただきまして本当にありがとうございます。2012年頃からエイブル・アート・アワードに挑戦してきました。念願の賞をいただけて本当にうれしいです。賞をいただいてから以前より絵を描く気持ちが湧き上がり、2018年の年始からずっと作品を制作しています。以前より、ターナーさんのアクリルガッシュを使っていたので、賞で画材をいただけたことが本当にうれしかったです。使ったことのない色もあったので、その色も使ってみました。とても楽しいです。これからもわたしの絵をみた方々が笑顔になったり、元気になったりしていただけたら本当にありがたいです。将来の目標は、東京で個展をすることです。持病の悪化などがありますが、その夢を叶えるためにこれからもたくさん作品を制作していけたらいいなと思っています。



写真は絵を描いているところです。いつも自室で作品を制作しています。

[受賞部門] 画材支援の部
《ターナー色彩賞》団体

■アート活動支援室ぴかり/障害者支援施設向陽園（北海道紋別郡遠軽町）

アート活動支援室ぴかりでは、障がい者支援施設向陽園やその関係事業所を利用している方々の創作活動のお手伝いやその環境づくりを行い、出来上がった作品や、その人自身のことを広く伝えていくことの窓口的役割を担っています。

活動は10年以上続けており、もともと絵具も多く使ってはいましたが、色数が少なく、職員が混色して補っていました。混色で出来上がる色は少なからずとも作ったその人の好みの影響を受けてしまうこと、くすんだ色になってしまうことがネックではありました。今回ターナー賞を受賞しまして、普段使うことのない蛍光色なども含まれており、何より利用者が積極的に今までにない色を使い始めたということが大きな変化だったと思います。おかげさまで受賞以降の作品が従来のものに比べかなりポップな仕上がりになりつつあります。新たな一面を見ることが出来、今後の表現方法の広がりにも期待が出来そうです。

アート活動支援室 ぴかり 菊池・平井 記



[受賞部門] 画材支援の部 《ターナー色彩賞》団体

■ソレイユ・スリヤン（東京都多摩市）

今回、「ソレイユ・スリヤン」を選んでくださった選考委員の皆様・スタッフの皆様、本当にありがとうございました。参加者同士の支え合いで活動している団体ですので、色とりどりの美しい絵の具をたくさん贈っていただき、ワクワク・ウキウキした気持ちで、2018年の活動を始めることができました。

「ソレイユ・スリヤン」では、1歳から12歳までのダウン症の子どもたちが、同時に表現活動をしています。もともとお絵描きが好きで参加してくる子どももいますが、多くの子どもたちにとっては、お絵描き以前の筆遊び・色遊び・水遊びに過ぎないのかも知れません。自分自身の表現を追求することより、隣のお友達と筆でじゃれあうことの方がずっと楽しい子どももいます。出来上がった作品には、皆あまり執着も無いようです。

しかし、その作品を見る大人たちのころには、確かに何か動かされるものがあり、それはもれなく瑞々しく動的な体験であるように思われます。

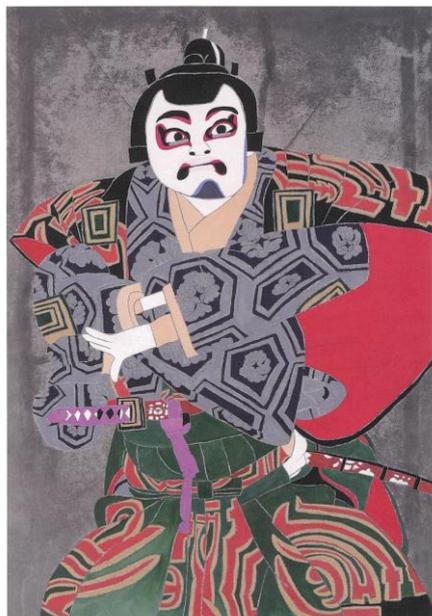
子どもたちの成長と共に、活動の幅や性質は変化してゆくかも知れませんが、今回の受賞を一つの契機として、より楽しく充実した集まりにしていきたいです。

ソレイユ・スリヤン 阿部桂子 記



[受賞部門] 展覧会支援の部

■谷村虎之介さん（千葉県佐倉市）



The 19th Able Art Award Exhibition
第十九回エイブル・アート・アワード
展覧会支援部門「受賞者展」

谷村 虎之介展

Toranosuke Tamamura Exhibition

二〇一七年十二月十八日_{mon}—二十三日_{sat}
午前十二時～午後七時（最終日は午後五時まで） 入場無料
オープニングパーティー：十二月十八日〔月〕午後五時～七時

■開催概要

第十九回エイブル・アート・アワード展覧会支援部門[受賞者展] 谷村 虎之介展

会期：2017年12月18日（月）～12月23日（土）

会場：ガレリア・グラフィカ bis（東京都中央区銀座6-13-4 銀座S2ビル1階）

時間：11:00～19:00 最終日は17:00まで

オープニングパーティー：12月18日（月） 17:00～19:00

主催：NPO法人 エイブル・アート・ジャパン

協賛・寄付：花王ハートポケット倶楽部、花王株式会社、富士ゼロックス端数倶楽部、富士ゼロックス株式会社、世田谷美術館さくら祭実行委員会（以上、展覧会支援の部）、松田油絵具株式会社、ターナー色彩株式会社（以上、画材支援の部）

特別協力：ガレリア・グラフィカ

7歳から歌舞伎公演に親しむ谷村虎之介さんによる、オリジナリティ溢れる歌舞伎シリーズの中から、厳選してご紹介します。

堂々と捉えられた役者の表情は時にユーモラスであり、見得をきる姿には力が籠ります。繊細な衣装表現にもご注目ください。

隅から隅まで、ずずずいと、乞い願ひ奉ります！

本展コーディネーター：佐藤 直子（横浜市民ギャラリーあざみ野）

■ 展覧会の様子



歌舞伎役者を描いた作品を中心に約 15 点を展示し、12 月 18 日～23 日の 6 日間で約 300 名の来場がありました。

初日のオープニングパーティは審査員、協賛企業の他、別事業で作家と活動を共にした企業の社員も訪れるなど盛況のうちに終了しました。作家は会期中連日滞在し、来場者の似顔絵を描くなど、展覧会は活発な交流の場となりました。2018 年 1 月 16 日からは、本展キュレーターをつとめた佐藤直子氏が所属する横浜市民ギャラリーあざみ野にて「フェローアートギャラリーシリーズ Fellow Art Gallery vol.29 谷村虎之介展」が開催されました。

作家の今後の活躍にもますます期待がかかります。



左が谷村虎之介さん

[受賞部門] 小さなアトリエ支援の部

■studio FLAT（神奈川県川崎市）

この度はこのような賞をいただき、大変光栄です。どうもありがとうございました。studio FLAT アーティストの自信へととなりました。

受賞後早速2月開催のFLAT展（2018年2月7日～15日）でのワークショップにて今回の活動の目標でもある出張studio FLATを行いました。会場には障がいあるなしに関わらず、いろいろな方にアート制作を行って頂き、簡易ではありますが、展示もさせて頂きました。普段作業所で制作をほとんどやらない方も楽しんで行っていました。改めて福祉にはアートが必要だと感じました。この展示後にはデフパペットひとみ座さんとスタジオクーカさんとコラボを行い、2018年2月22日～25日まで川崎のソリッドスクエアのロビーにて展示を行いました。こちらは地元川崎の劇団とのコラボだったので、川崎の方々にたくさん見て頂き、そしてstudio FLATのアーティストの作品のすばらしさを知って頂けました。studio FLATの勢いがついていると大平も実感すると同時に保護者の方々も感じて頂けているのが、とてもうれしく思っています。アーティスト本人たちはマイペースなので、いつもどおり頑張っています。

今後は2018年3月7日に公演の東京交響楽団とのコラボです。演奏曲の火の鳥で使用するプロジェクションマッピングにてstudio FLATの作品が使用されます。公演当日のロビーにも原画を展示する予定です。その後はTVKテレビ神奈川から先日取材を受け、3月11日朝9:30より放送予定です。内容は3月17日、18日に行う神奈川県主催の「みんなあつまれ」に向けたPR動画です。「みんなあつまれ」では半澤さん、山内さんがワークショップを行う予定です。年度内はばたばたですが、新年度からは川崎市、川崎市文化財団主催の展示会（2018年11月開催予定）へ向け活動予定です。こちらでは川崎市内のアーティストの育成と発掘を目的にまさに出張studio FLATを行い展示会へ向け制作を予定しております。また地元川崎市の幸区との連携で夢見ヶ崎動物公園とアートを通じて関わる計画が進んでおります。最後にstudio FLAT自体の基盤をしっかりとして行くことを新年度より構想しております。

以上の様々な活動に対して支援金を使用していきます。

どうぞ今後とも応援宜しくお願いいたします。

studio FLAT 大平 暁 記



2018 1/20 川崎市主催のイベントのノベルティーにイラスト採用。
川崎市鹿島田駅近くの書店にてイラストワークショップ。
川崎市長とstudio FLAアーティスト山内さん



2018 2/11-12 FLAT展 出張 studio FLAT





2018 2/22-25 デフパベットひとみ座 河の童 展示風景



2018 3/11 放送 TVK カナフルTVの撮影風景

平成 29 年度 特別芸術文化奨励金受給事業
「プランナイズ・オーガスト」を中心とした活版のクオリティ・オブ・ライフの創造と向上のための事業

東京交響楽団

Fantastic Orchestra

音楽はみんなのもの。さあ、コンサートに出かけよう！
～みんなで集えるコンサート～
プロジェクション・マッピングで火の鳥が華麗に舞う

プログラム
ビゼー「カンメン」第1幕への前奏曲
フォーレ「レクイエム」より「Pie Jesu」
モーツァルト「演奏会用アリア」
「はげしい意切れとときめきのうちに」
「Tra cento affari」K88
アンダーソン「シンコペータッド・クロック」
宮川彬良「シンフォニック・マンボNo.5」
ストラヴィンスキー「火の鳥(1919年版)」

指揮：内田康元
ソプラノ：橋本夏子
ナレーター：朝岡 聡

2018年 3/7 Wed
16:00開演 (15:00開場)
ミュージア川崎シンフォニーホール

チケット料金
全席指定 (税込) ¥2,000

プロジェクションマッピングにて作品使用
ロビー展示予定

2018 3/7 公演 東京交響楽団
みんなで集えるコンサート

チケットお申し込み・お問い合わせ
● TOKYO SYMPHONY オンラインチケット
044-520-1511 (平日9:00～19:00(土・日祝日除く))
● TOKYO SYMPHONY オンラインチケット
http://tokyosymphony.jp

チケット有効日 2017年11月7日(土)10:00～
— 無期 2017年11月5日(水)10:00～
— 無期です。

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本橋三井ビルディング5階
TEL:03-5561-3111 FAX:03-5561-3112

東京交響楽団 東京都交響楽団 東京都交響楽団 東京都交響楽団 東京都交響楽団 東京都交響楽団 東京都交響楽団 東京都交響楽団 東京都交響楽団 東京都交響楽団

[受賞部門] 小さなアトリエ支援の部

■ペンギンズアート工房/NPO 石巻広域クリエイティブアートの会（宮城県石巻市）

助成の決定にとっても感動しました。これからのペンギンズ活動を評価して頂いたことがとてもうれしくエネルギーが湧いてきました。より一層、ペンギンズの活動を一歩進めるために使用したいと考え下記の内容で計画を進めています。

①企業とのコラボ事業の経費として（ペンギンズ作品展示のためのパネル・画材購入済み）

- ・石巻赤十字病院のがん患者相談室（3室）にペンギンズアートを常設展示決定。

副院長先生と患者支援センターの係の方にお会いして計画が進んでいます。

②地域の人たちとコラボ商品開発費として（布地購入済み・備品としてインクジェットプリンター）

- ・ペンギンズが描いた布地を地域の方に製品化（利用方法）を公募します。現在はその布地制作を進めています。インクジェットプリンターはアイロンプリントするシールを印刷するために使用します。かわいい小物や洋服までを考えています。「PENGUINS WARK」（仮題）のイベントで、その小物や洋服を着て町を歩くイベントを構想中です。

③ペンギンズギャラリーアート体験コーナーの材料費として（織りや絵画、彫刻材料等購入済み）

- ・地域の人が特に織りの体験に多数参加しています。さらにアートの幅を広げるため画材を準備し購入しました。障がいあるなし関わらず交流できるアートスペースとして広げます。

④発信の改善費用として（ホームページを改装する）

- ・①～③の内容等を発信する内容やペンギンズの紹介を分かりやすく魅力的なものにします。

障がいのある人たちの中に芸術性がある人はたくさんいます。彼らのアートの力を強みとして社会に貢献できるカタチを実現する夢に向かっていきます。いろいろなジャンルの人たちと繋がりながら、地域の人たちとペンギンズたちが楽しく生きがいもてるスペースにしていきたいです。

ペンギンズアート工房 宮川 和子 記



上左から 石巻赤十字病院展示 ・石巻赤十字病院副院長先生と打ち合わせ ・布の制作 ・さをり織り体験